

報 道 各 位

SEA JAPAN 2024 展示会への参加予定について

一般社団法人 日本船用工業会

当会は、4月10日から12日まで東京ビックサイトで開催されるSEA JAPAN 2024展示会（1994年以来15回目）に、日本の海事クラスターがもつ高度な技術や研究成果等を世界に発信することを目的に、前回に引き続き（公財）日本財団の助成を受け、ジャパンパビリオンを設置し参加する。

本展示会の参加にあたっては、従来と同じく国土交通省海事局、海上保安庁の他、関連団体、関連企業より構成する「SEA JAPAN 2024 海事クラスター企画委員会（座長：国土交通省海事局船舶産業課 江頭博之舟艇室長）」を設け、企画・運営を行った。

今回は、「次世代へつなぐ新しい技術」をメインテーマに、カーボンニュートラルやDX・自動運航等の海事産業の最新トピックス等から成る9つのカテゴリで区分した「テーマゾーン」による展示を行う。本テーマゾーンに、当会の会員企業73社によるメンバーズゾーンを加えて、これまでで最大となる規模のジャパンパビリオンを形成する。

SEA JAPAN 2024 海事クラスター企画委員会では、テーマゾーンによる展示だけでなく、各種セミナーやイベントの企画も行っており、今回は「国際海事セミナー」、「学生イベント」、「船舶海洋技術セミナー」、「海上保安庁測量船「平洋」の一般公開」を実施する。

「国際海事セミナー」は、展示会初日の4月10日に、オープニングセレモニーに続いて開催する。6年振りの開催となる本セミナーでは、シンガポール船主協会（Singapore Shipowners Association）と中国船舶工業行業協会（China Association of The National Shipbuilding Industry（CANSI））から講演者を招き、カーボンニュートラルをテーマにした講演を行う。

「学生イベント」は、日本造船工業会主催の「造船業界学生イベント」と当会主催の「船用業界学生イベント」の2つを並行して実施。当会主催の「船用業界学生イベント」は、4月11日から12日に亘り、学生に海事業界及び船用工業について学んでもらうことを目的に、全国の10大学・高専より60名程度の学生を招き、古野電気株式会社及び三井E&S造船株式会社の担当者による船用技術に関する講演に続き展示会場各ブースの見学、測量船の船内見学、企業に在籍するOB・OG交流会等を行う。

最終日の4月12日には、「船舶のGXとDXへのチャレンジ」をテーマに各社・機関のGXとDXに係る取り組みを紹介する「船舶海洋技術セミナー」を実施。これに加え、前回と同様に、海上保安庁の協力を得て大型測量船「平洋」の一般公開を行い、日本の最新の技術を集めた船舶の見学ができる機会を設ける。

<展示会の概要>

会 期：令和6年4月10日(水)～ 12日(金) 10:00～17:00

会 場：東京ビッグサイト 東1～3ホール

来場者数：20,000名 ※主催者発表の見込み数 (前回18,183名)

<テーマゾーンの概要> (日本財団助成事業)

内 容：我が国海事クラスターの有する技術力を内外に発信するため、国交省、関連団体、大学、海運会社等で構成する「SEA JAPAN 2024 海事クラスター企画委員会」にて検討の上、我が国で研究・開発した製品・技術等について、下記のテーマにカテゴライズして展示を実施

カテゴリ：①総合展示、②海運、③造船・エンジニアリング、④船級、⑤艦船、⑥内航・フェリー、⑦カーボンニュートラル、⑧DX・自動運航、⑨研究開発

メインテーマ：次世代へつなぐ新しい技術

展示面積：921.3 m²

出展社数：47 ブース／52 社・機関

1. 総合展示

国土交通省

2. 艦船

海上保安庁、防衛省 海上幕僚監部、防衛装備庁

3. 海運

日本郵船(株)、(株)商船三井、川崎汽船(株)

4. 造船・エンジニアリング

今治造船(株)、川崎重工業(株)、ジャパン マリンユナイテッド(株)、(株)新来島サノヤス造船、(株)名村造船所、日本シップヤード(株)、三井 E&S 造船(株)、三菱造船(株)、(一社)日本造船工業会、(一社)日本中小型造船工業会

5. 内航・フェリー

(株)商船三井さんふらわあ、太平洋フェリー(株)、阪九フェリー(株)、宮崎カーフェリー(株)、(株)名門大洋フェリー、(独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構

6. 船級

(一財)日本海事協会

7. カーボンニュートラル

(一財)次世代環境船舶開発センター、(株)赤阪鐵工所、伊藤忠商事(株)、かもめプロペラ(株)、川崎重工業(株)、(株)ジャパンエンジンコーポレーション、ダイハツディーゼル(株)、ダイキン MR エンジニアリング(株)、阪神内燃機工業(株)、ボルカノ(株)、眞鍋造機(株)、ヤンマーパワーテクノロジー(株)、ヤンマーマリンインターナショナルアジア(株)、郵船商事(株)、Ammonia to Zero コンソーシアム(グリーンイノベーション基金)、メタンスリップ削減プロジェクト(グリーンイノベーション基金)

8. DX・自動運航

日本財団、東京計器(株)、(一社)日本船用工業会

9. 研究開発

神戸大学、東京大学、東京海洋大学、横浜国立大学、(独法)国立高等専門学校機構
(国研)海洋研究開発機構、(国研)海上・港湾・航空技術研究所、
(一財)日本船舶技術研究協会、(一財)日本造船技術センター

<メンバーズゾーンの概要> (自主事業)

展示面積：1,875 m²

出展者数：69 ブース／73 社

出展者：(株)IHI 原動機、(株)相浦機械、伊吹工業(株)、(株)ウエイクフィールド、潮冷熱(株)、
(株)宇津木計器、(株)ウッズ、EIZO(株)、(株)エヌワイ、(株)オーケーエム、
ガイスリンガー(株)、(株)カシワテック、神奈川機器工業(株)、かもめプロペラ(株)、
川崎重工業(株)、極洋電機(株)、(株)ケーイーアイシステム、(株)高工社、(株)神戸機材、
(株)小坂研究所、(株)サクシオン瓦斯機関製作所、(株)ササクラ、(株)サタケ、
(株)サンフレム、JRCS(株)、JFE エンジニアリング(株)、島田燈器工業(株)、
(株)ジャパンエンジンコーポレーション、(株)湘南工作所、
(株)湘洋エンジニアリング、(株)シンコー、(株)関ヶ原製作所、セムコ(株)、
ダイキン MR エンジニアリング(株)、大晃機械工業(株)、ダイハツディーゼル(株)、
大洋電機(株)、(株)中国電機サービス社、中国塗料(株)、中日輪船商事(株)、
(株)帝国機械製作所、DEXIE Japan(株)、寺崎電気産業(株)、東京計器(株)、
東京日進ジャバラ(株)、ナカシマプロペラ(株)、(株)浪速ポンプ製作所、
ナブテスコ(株)、西芝電機(株)、(一財)日本気象協会、
日本船用エレクトロニクス(株)、日本無線(株)、BEMAC(株)、(株)日阪製作所、
(株)日立ニコトランスミッション、富士電機(株)、富士貿易(株)、ボッシュ(株)、
ボルカノ(株)、眞鍋造機(株)、マリタイムレポーター、(株)ミズノマリン、
(株)三井 E&S、三菱化工機(株)、三菱重工マリンマシナリ(株)、ムサシノ機器(株)、
(株)村山電機製作所、明陽電機(株)、山科精器(株)、(株)ヤマトメタル、
ヤンマーパワーテクノロジー(株)、郵船商事(株)、横河電機(株)、(株)YDK テクノロジーズ

<関連イベントの概要>

1. 国際海事セミナー

日 時：令和6年4月10日(水) 10:40-12:30

場 所：カンファレンスルーム

主 催：海事クラスター企画委員会

テ ー マ：カーボンニュートラル

プログラム：

10:15~10:45	オープニングセレモニー
10:45~11:35 (50分)	シンガポールの脱炭素化に向けた取り組みと、シンガポール船主が目指す将来像について Singapore Shipowners Association President/Caroline Yang 氏
11:35~12:25 (50分)	中国造船業界における新燃料開発の現状、実績と展望 CANSI Secretary General/Li Yanqing 氏

2. 船用業界学生イベント

日 時：令和6年4月11日(木)～12日(金)

場 所：展示会場等各所

主 催：日本船用工業会

参加大学：東京海洋大学、芝浦工業大学、東海大学、大阪公立大学、神戸大学、兵庫県立大学、
広島商船高等専門学校、鳥取大学、長崎大学、長崎総合科学大学

対象学年：原則として学部3年生～修士1年生(2024年4月現在)

参加人数：約60名

プログラム：

【4月11日(木)】

時間	実施概要	場所
11:30	受付開始	イベントステージ (展示会場内)
11:45-12:00	開会挨拶・船用業界の説明	
12:00-12:10	オリエンテーション	
12:10-13:00	講演 講演1：古野電気株 12:10-12:35 講演2：三井E&S造船株 12:35-13:00	
13:00-17:00	展示会場及び測量船「平洋」の見学 ※「平洋」の見学は15:00-17:00の間で実施	展示会場及び 有明埠頭
17:30-19:30	OB・OG等との交流会	Eat IT! (会場内レストラン)

※4月12日(金)は終日展示会場見学

3. 船舶海洋技術セミナー

日 時：令和6年4月12日（金）10:30～15:15
 場 所：カンファレンスルーム
 主 催：国土交通省、日本海事協会、日本船用工業会
 テー マ：船舶のGXとDXへのチャレンジ
 プログラム：

午前の部：10：30～12：20	
10：30～10：35 (5分)	開会挨拶 国土交通省 大臣官房技術審議官 河野 順氏
10：35～10：50 (15分)	船舶のグリーントランスフォーメーションに向けた国の取り組みについて 国土交通省 海事局海洋・環境政策課長 今井 新氏
10：50～11：05 (15分)	日本財団ゼロエミッション船プロジェクトについて 公益財団法人 日本財団 常務理事 海野 光行氏
11：05～11：20 (15分)	船用水素エンジンおよび燃料供給システムの開発（GI 基金事業） 川崎重工業(株) エネルギーソリューション&マリカンパニー エネルギーデバイス部 レプリコン技術部 副部長 東田 正憲氏 (株) ジャパンエンジンコーポレーション 水素燃料エンジン開発推進室室長兼開発部部長 江戸 浩二氏 ヤンマーパワーテクノロジー(株) 特機事業部開発部先行技術部部長 濱岡 俊次氏
11：20～11：35 (15分)	アンモニア燃料国産エンジン搭載船舶の開発（GI 基金事業） 日本郵船(株) 燃料炭・アンモニアグループ グループ長 黒沢 敦彦氏
11：35～11：50 (15分)	アンモニア燃料船開発と社会実装の一体型プロジェクト（GI 基金事業） 伊藤忠商事(株) グリーン・イノベーション営業室 室長 赤松 健雄氏
11：50～12：05 (15分)	触媒とエンジン改良によるLNG燃料船からのメタンスリップ削減技術の開発（GI 基金事業） ヤンマーパワーテクノロジー(株) 特機事業部開発部試験部部長 折野 和昭氏 日立造船(株) 脱炭素化事業本部脱炭素化システムビジネスユニット カーボンニュートラル触媒事業推進室室長 日数谷 進氏
12：05～12：20 (15分)	次世代船舶の社会実装に向けた安全性評価と基準策定に関する取り組み (一財)日本海事協会 技術部次長 西藤 浩一氏
《昼休憩（約70分）》	
午後の部：13：30～15：15	
13：30～13：55	共に拓く海運の未来：スマートナビゲーションシステム研究会の紹介

(25分)	三井 E&S 造船(株) 事業開発部自律船グループ長主管 三好 晋太郎氏
13:55~14:10 (15分)	安全・安心な船内ネットワークを装備するために：ISO 16425 のご紹介 BEMAC(株) 東京データラボチーフエキスパート 山田 隆志氏
14:10~14:25 (15分)	船上 IoT データ活用のためのデータ標準：ISO 19848 のご紹介 寺崎電気産業(株) システム事業開発設計部開発設計 2 課課長 森本 峰行氏
14:25~14:40 (15分)	実海域データ共有のための船上データサーバ要件：ISO 19847 のご紹介 ベニックソリューション(株) システム開発本部システム開発部部長 喜多 敏幸氏
14:40~14:55 (15分)	船陸間非同期データ通信規格：ISO 23807 (株)MTI 船舶物流技術グループ船舶物流 IoT チームチーム長 橋本 仁氏
14:55~15:15 (20分)	ShipDC での ISO 活用事例 (株)シップデータセンター 代表取締役社長 池田 靖弘氏

4. 船舶の一般公開

日 時：令和6年4月12日(金) 10:00-16:00

場 所：東京港有明西埠頭（東京ビッグサイト隣接の岸壁）

主 催：海事クラスター企画委員会、インフォーマ マーケッツ ジャパン

協 力：海上保安庁 測量船「平洋」

以 上